

学校紹介  
新聞

# 古河市立 古河第二中学校



◆校長：落合 剛  
◆生徒数：575人  
◆創立：1958年  
◆住所：古河市鴻巣780

各クラスが団結(だんけつ)して競(きそ)い合う体育祭



がんばっています！

## 自分たちでつくる体育祭

本校は全学年で協力しながら行う体育祭「ファミリンピック」を開催しています。近年は半日開催となりましたが、実行委員が何度も話し合ったり、各クラス協力して準備したりすることで、1日開催であった時と同じくらい充実した行事となっています。ファミリンピックの魅力として、生徒による生徒のためのプログラム作成があります。クラス対抗綱引きや全員リレーなど、その年ごとに生徒が種目内容を考え、競技運営まで生徒が中心となって行います。一人一人がファミリンピックスローガンを胸に刻み、一丸となって活動する姿は、皆さんにとって忘れられない思い出となるはず。 (3年 西川宙来、フィッシュンデン)



西川宙来



フィッシュンデン



こんな学校です！



新しいスローガンを考える生徒会

## 新たな伝統創り目標に

古河第二中学校は、創立66年を迎える古き良き伝統ある学校です。今年度は、575人という生徒数を誇り、古河市内でも規模の大きな学校です。校長先生と生徒会役員でランチミーティングなどを行い、学校スローガンを作成しました。今年度の学校スローガンは「継往開来～INFINITY～」です。先輩方が繋いできた伝統を受け継ぎ、新たなことにも挑戦していく、生徒一人一人の無限の可能性



性を生かし、さらなる発展を目指していくという思いが込められています。今まではコロナ禍で、さまざまな場面で制限がかかり、悔しく残念な思いをしたこともあり。学校スローガンのもと、思い出に残るような新たな企画、そして新たな伝統を創っていくことが生徒会の目標です。生徒一人一人の意見を取り入れ、誰もが楽しめる学校づくりを目指していきます。 (3年 高橋穂音)



リノベーション委員会の話し合い

生徒主体の活動

## 校則改正へ委員会設立

本年度、古河二中では、リノベーション委員会という、校則改正などを目的とした委員会を設立しました。最初は「本当に校則を変えられるのか？」と考えていました。しかし、生徒会長や他の構成員の必死に活動している姿を見て、モチベーションが上がっています。生徒自ら校則について考え、変えていくというのは今までなく、緊張や不安を感じます。しかし、「より良い学校へ」という思いを持ち、学年という垣根を払い、協力を惜しまず活動することができています。それぞれの意見や考えがこの学校の明るい未来になると思うと、この仕事を任せられたことを誇りに思います。一人一人がこの学校の代表という自覚を持ち、古河二中をより良くしていきます。 (2年 極山歩漣、相良優里奈)



極山歩漣



相良優里奈

## わくわく 学校行事



吹奏楽部による演奏ステージ

個性披露できる文化祭



宮本大雅



吉田勇翔

「Let's Have Fun Singing～一生に一度の最高の思い出を～」のスローガンのもと、昨年10月に鴻の鳥祭が開かれました。各クラスの合唱コンクールや全校生徒で創作を行う「全校造形」が企画されました。芸工グランプリでは、ダンスやお笑いなど個性あふれるパフォーマンスを披露。一人一人が個性を披露できる、学校全体で盛り上げられることが鴻の鳥祭の魅力です。吹奏楽部のステージも、生徒になじみのある曲や、生徒を巻き込んだ体験型の演奏などで、いつも周りをわくわくさせてくれます。鴻の鳥祭は欠かせない行事の一つです。 (3年 宮本大雅、2年 吉田勇翔)

次回は6月7日 牛久市立牛久第一中学校です

内閣総理大臣賞は 誰の手に!? 自分らしく夢をかたちに... 第22回 全国こども陶芸展 in かさま 申し込み期間 2023年5月1日(月)～6月2日(金) 展示期間 2023年7月21日(金)～8月31日(木) 茨城県陶芸美術館 第2展示室・県民ギャラリー ※全応募作品を展示します。 主催:茨城新聞社 笠間市 笠間市教育委員会 共催:NHK水戸放送局 茨城県陶芸美術館 共同通信社 後援:文化庁 茨城県 茨城県教育委員会 茨城県立笠間陶芸大学校 笠間観光協会 茨城工芸会 笠間焼協同組合 笠間焼伝統工芸士会 笠間日動美術館 笠間工芸の丘 茨城放送 茨城新聞文化福祉事業団 協賛:常陽銀行 筑波銀行 水戸信用金庫 水戸証券 JA共済茨城 近畿日本ツーリスト水戸支店 月刊みと 橋本電炉工業 エバタコーポレーション 詳細はこちら